

木更津飛行場周辺まちづくり実施計画 策定検討委員会

資料1 事業経過報告

資料2 実施計画（吾妻公園）について

資料3 吾妻公園整備の検討方針について

資料 1 事業経過報告

1. 「木更津飛行場周辺まちづくり基本構想・基本計画」の背景

- ・木更津市民会館は昭和45年に大ホール、集会棟、昭和55年に中ホール棟が整備され、長年多くの市民に親しまれてきた。
- ・大ホール、集会棟は、耐震性能の不足により、平成27年4月から利用を停止している。



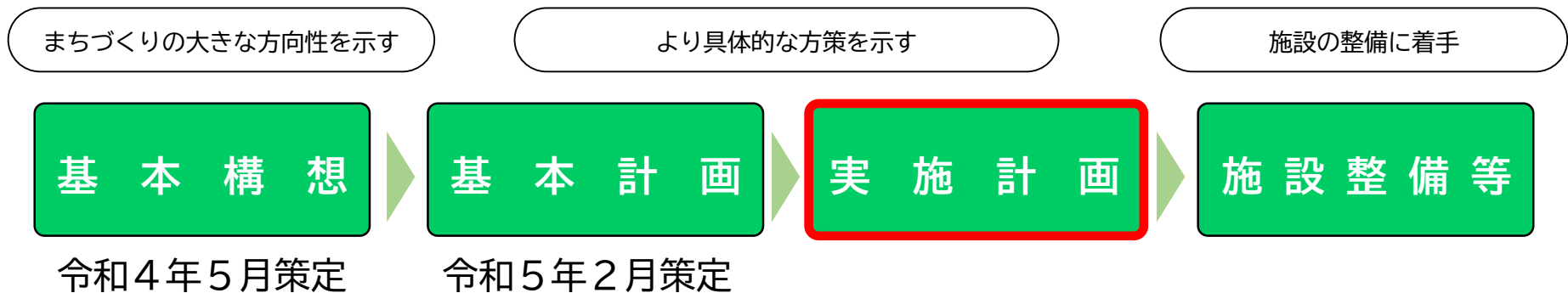
- ・新たなホールの方向性を示す「木更津市中規模ホール整備基本計画」を令和2年6月に策定。
- ・概算総事業費 52～60億円程度の見込み。



- ・整備にかかる財政負担を可能な限り軽くするため、防衛省まちづくり支援事業を始め、様々な補助事業の活用を検討。

2. 防衛省まちづくり支援事業

- ・主として、航空機騒音問題への対応策の一つとして実施するもの。
- ・地方公共団体が、住民の需要及び防衛施設の存在、地域の特性を踏まえつつ、その障害の緩和に資する施設の整備を通じて防衛施設の存在を前提としたまちづくりを行う場合に、国がその費用の一部を補助する。
- ・条件
 - 原則、特定防衛施設関連市町村に指定された地方公共団体に限る
 - 一つの市町村につき一回の活用に限る



3. 木更津飛行場周辺まちづくり基本構想・基本計画

新たなにぎわいの場・安心安全の創造

「新たな交流」を生む

回遊性を持つ
にぎわいのあるまちづくり

「いのち」を守る

防災の機能を持つ
安心・安全なまちづくり

『みなとまち木更津の再生』

中心市街地や隣接するみなと周辺の一体的なまちづくりを進める

金田地区のにぎわいを、駅周辺地区、
内港地区及び築地地区へ誘導する

『災害に強いまちづくり』

台風などの大規模な災害に対し、更なる防災・減災対策の整備が必要

市民の皆さんが安心安全に暮らすための施設整備を行う



3. 木更津飛行場周辺まちづくり基本構想・基本計画

■吾妻公園

コンセプト

文化芸術活動等の機能を中心とした世代間交流の拠点となる施設づくり

文化芸術活動や生涯学習の拠点づくり

- ・多目的ホール、スタジオ、図書館、公民館
- ・市民の多様な文化活動に対し、発表や発信できる施設

災害時に対応できる施設づくり

- ・津波避難、緊急避難場所、支援物資の搬入場所など

市民と自衛隊員が交流できる施設づくり

- ・自衛隊員との交流イベントを開催する施設

公園としての再整備

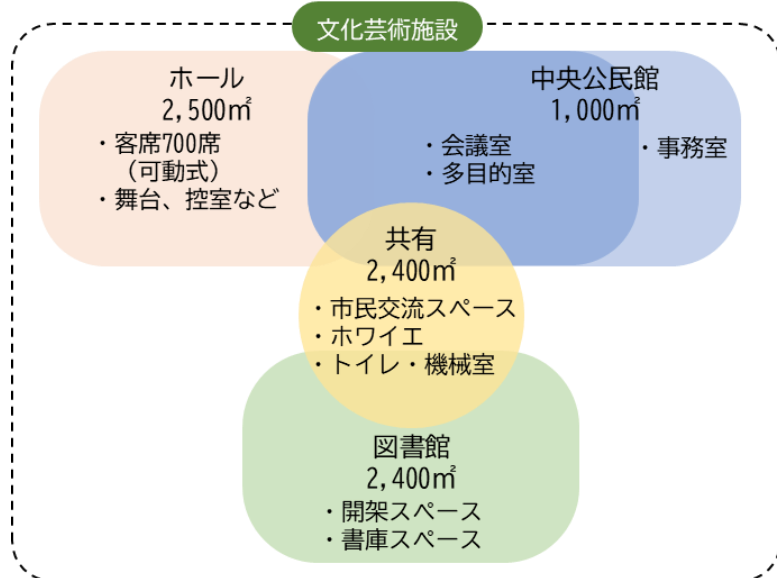
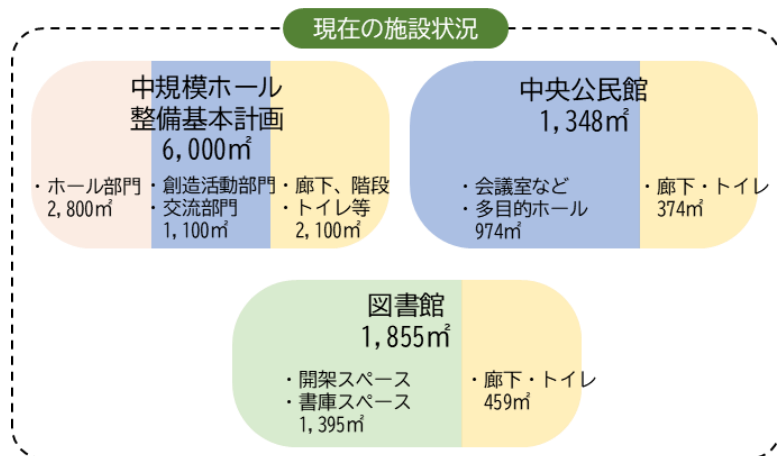
- ・雨天時でも活動できる大屋根広場
- ・屋外でも活動できる場（キッズバイク、ドッグラン）

<吾妻公園全体図>

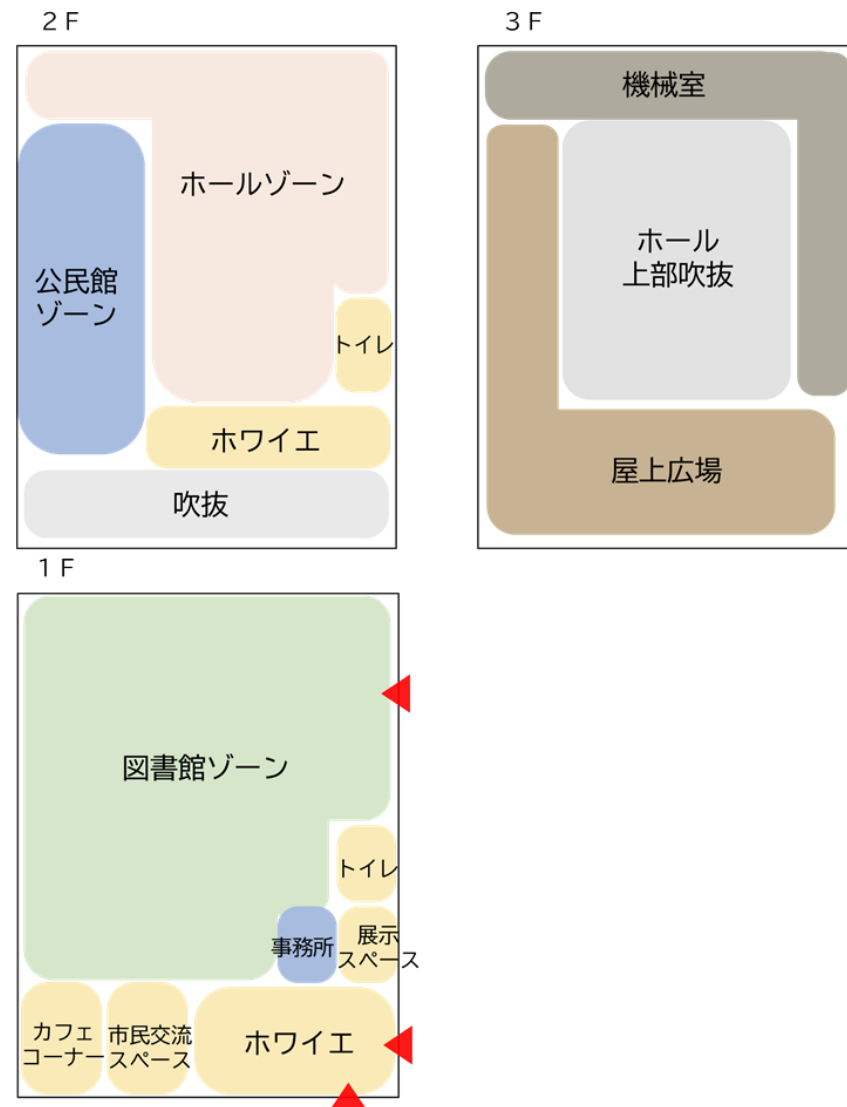


3. 木更津飛行場周辺まちづくり基本構想・基本計画

■文化芸術施設の整備内容及び規模

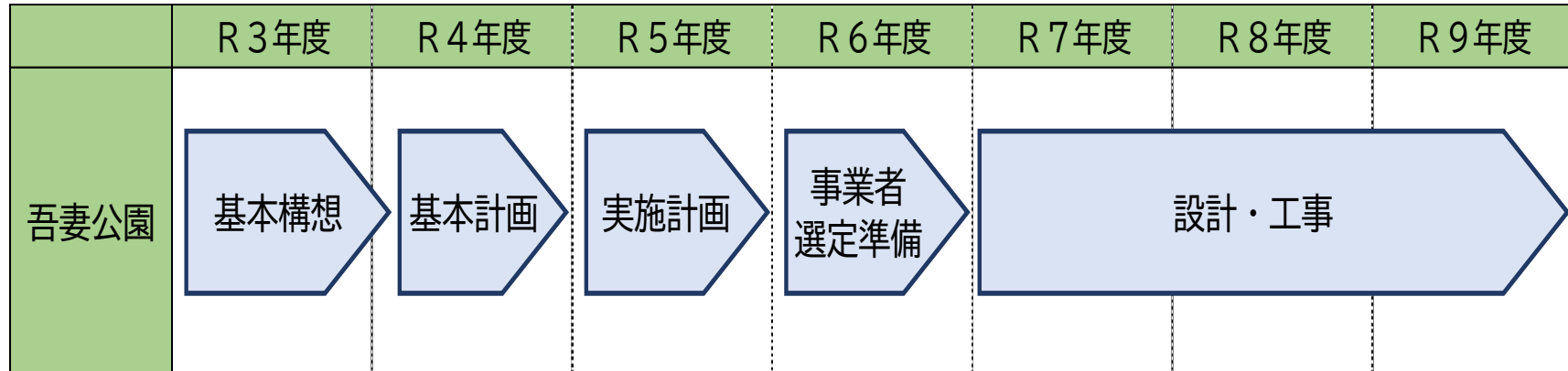


■文化芸術施設（ゾーニングイメージ）



3. 木更津飛行場周辺まちづくり基本構想・基本計画

■事業スケジュール



■概算事業費の検討

重点地区	施設	概算事業費
吾妻公園	文化芸術施設	約88億3,200万円
	大屋根広場	約3億6,000万円
	駐車場	約2億8,100万円
	公園・広場整備	約5億3,000万円

資料2 実施計画（吾妻公園）について

令和5年度に策定する実施計画（吾妻公園）では、以下の点を検討します

1. 吾妻公園全体の施設配置の詳細検討
2. 文化芸術施設の機能・諸室の詳細検討
3. 事業手法、概算事業費の詳細検討

1. 吾妻公園全体の施設配置の詳細検討

検討事項

検討項目	内容
施設配置	利用しやすい公園となるような各施設の配置を詳細に検討
駐車場	駐車場の位置、駐車台数の検討
車両動線	幹線道路からの進入路、園内通路の検討
公園部分	交通公園やキッズバイクゾーンの規模、設置遊具の検討
民間活力 活用検討部分	導入範囲の検討、導入内容の精査

2. 文化芸術施設の機能・諸室の詳細検討

検討事項

検討項目	内容
ホール内部	舞台やメインエントランス、搬入口の配置の検討
公民館内部	公民館の規模、配置の検討
図書館内部	図書館の規模、配置の検討
ホワイエ、市民交流 スペース	ホワイエ、市民交流スペースの配置の検討
展示スペース	展示スペースの規模、内容の検討

3. 事業手法、概算事業費の詳細検討

検討事項

検討項目	内容
事業手法	従来方式
	DB方式 or DBO方式
概算事業費	精度のある概算事業費の算出

資料3 吾妻公園整備の検討方針について

1. 現況分析



2. 公園全体のコンセプト案

■パーク・ハイ・プロジェクトにおける吾妻公園の位置づけ
「ウェルネス（健康・運動）」

■基本構想段階での方針
「文化芸術活動等機能を中心とした
世代間交流の拠点となる施設づくり」

■基本計画での施設づくりの方針

3-2. 施設づくりの方針



○施設づくりの方針

■敷地面積を活かした文化芸術活動や生涯学習の交流拠点づくり
・多世代が気軽に集い、学び、交流できる施設として、「木更津市規模ホール整備基本計画（令和2年6月策定）」で示す新たなホールの方向性を踏まえるとともに、図書館、中央公民館等の公共機能も複合した文化芸術施設を整備します。

■災害時に対応できる施設づくり
・災害時に周辺住民の避難所機能等の機能を整備します。

■市民と自衛隊員が交流できる施設づくり
・基地に関連する物品等の展示など、基地の役割の理解促進を図る機能を整備し、連携の強化を図ります。

■公園としての再整備
・公園として、緑豊かな環境で屋外でも活動できる場や、雨天時でも活動できる大屋根広場を整備します。あわせて、公衆設置管理制度（Park-PFI）等を活用し、民間事業者による収益施設の整備も検討します。

■実施計画における基本方針案

市民に愛される地域のシンボルとなる場
市民が気軽に利用できる、市民に開かれた賑わいの場
複合施設だから生まれる、出会いや交流のきっかけがちりばめられた場



市民が気軽に利用できる、市民に開かれた賑わい拠点

- ・屋内外一体の文化芸術活動の場
- ・市民が気軽に集える芝生広場やステージ
- ・誰もが使いやすく日常的に健康を育める公園



市民だけでなく、多くの人たちが集い、学び、交流する拠点

- ・公園一帯でイベントを開催できる施設
- ・自衛隊に関連する展示や自衛隊員との交流イベントを開催できる施設



みなとまち木更津らしく海を身近に感じられる公園・施設

- ・屋上から海を望む
- ・訪れる人は、そこから見えるサンセットを楽しむ



発災時でも防災機能を有する公園

- ・浸水被害を受ける可能性のある地域：「津波避難施設」を適切に確保